

区内の適切な案内誘導のために
公共サイン統一化に向けたガイドラインを作成
 利用者に分かりやすいサインを目指します

新たな取り組み

事業経費

1,321万円

◆事業内容

公共サイン(公共施設等案内板)統一化に向けたガイドラインと、再配置に向けた整備計画を策定します。

◆目的・効果

- 区民や国内外から本区を訪れる方にとって分かりやすいサインに再整備することで、区内の案内誘導を適切に行うとともに、景観に統一性をもたせることができます。
- 多言語対応や多機能化により、更なる利便性向上を図ります。
- 広告導入を検討するなど、維持管理費の削減を図ります。

◆背景

現在、区が設置している公共サインは、管理する各課でデザイン等が異なっており、その多くが多言語対応も不十分であるなど、環境整備が必要となっています。



地域振興課【大拠点サイン】
 鉄道駅周辺等に設置している
 誘導半径約1.2kmの案内板



文化観光課【iサイン】
 東京都の指針に基づき
 作成した観光案内板

◆現在の主な公共サイン設置数

地域振興課	328基
文化観光課	21基
その他	283基
合計(11課)	632基

◆他区の状況

23区中10区がガイドラインに沿った整備を実施

◆スケジュール

年度	内容
平成29年度	ガイドライン・整備計画の策定
平成30年度以降	整備計画に沿って、再整備を実施

長期計画の該当項目：施策17 コミュニティの活性化

担当課：地域振興課
 窓口：4階26番

電話：3647-4962
 内線：2413

燃えない・燃え広がらないまちづくりを推進
不燃化特区に防災に資する公園を整備
 地元住民等によるワークショップを通して

新たな取り組み

◆事業内容

事業経費	29年度	5,530万円
	総事業費	9,666万円

不燃化特区(北砂三・四・五丁目地区)内に、地域防災に資する公園を整備します。

◆背景・目的

- 本地区は住宅が密集しており、延焼被害対策としてのオープンスペースの確保や、消防活動を円滑にする防火水槽などの設置・検討が求められています。
- 本区の区民1人当たりの公園面積が8.36㎡に対し、不燃化特区内は0.34㎡と不足しており、住環境の向上に資する公園を整備する必要があります。

◆特色

- 不燃化特区指定後、初めての公園整備(ハード事業)となります。
- 公園整備にあたり、まちづくり協議会をはじめとして住民によるワークショップを開催するなど、地域とともに公園づくりを進めます。
- 移転により現在使用していない保育園跡地を利用して整備します。



地元住民による他区の防災広場視察の様子

◆公園概要

場所	旧小名木川保育園跡地(北砂五丁目21番5号)
規模	敷地面積:約1,156㎡
機能	ワークショップの意見などを踏まえて整備 ※防火水槽、かまどベンチ、マンホールトイレ など

◆スケジュール

年度	内容
平成28年度	北砂三・四・五丁目地区まちづくり協議会設立
平成29年度	旧小名木川保育園解体、ワークショップ開催
平成30年度	公園設計
平成31年度	公園整備、開園



不燃化特区の範囲

長期計画の該当項目：施策32 災害に強い都市の形成

担当課：地域整備課
 窓口：5階23番

電話：3647-9491
 内線：2983

良好な景観の創出や防災機能の強化のために
東京五輪会場周辺区道の無電柱化工事を実施
安全で快適な歩行空間を提供

事業の拡充

事業経費

29年度

5億632万円

◆事業内容

総事業費

15億9,181万円

東京2020オリンピック・パラリンピック競技会場周辺の区道において、無電柱化工事を実施します。

◆目的

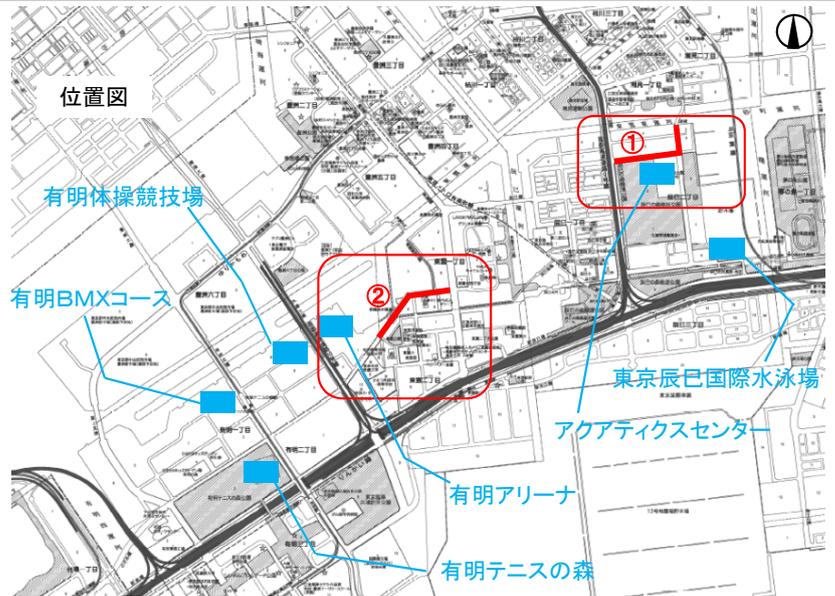
東京2020大会会場周辺の区道において、良好な都市景観の創出や都市防災機能の強化等を図ります。

◆特色・効果

道路の地下空間を利用し、電力線や通信線等をまとめて収容することにより、地上空間の電柱をなくし、安全で快適な歩行空間を確保することができます。

◆整備地区・延長

	地区	延長
①	辰巳地区	522m
②	東雲地区	525m



◆スケジュール

平成29年度	電線共同溝本体設置工事
平成30年度	引込連系管工事、道路本復旧工事
平成31年度	道路本復旧工事

◆背景

東京都も東京2020大会に向け、都道において無電柱化を行っています。区と都が連携し、競技会場周辺の観客の主な動線となる道路を整備していきます。

長期計画の該当項目：施策3-1 便利で快適な道路・交通網の整備

担当課：道路課
窓口：防災センター3階5番

電話：3647-9374
内線：6448

災害発生時のトイレ問題を解消
拠点避難所へクワトロトイレを導入
 利便性と衛生面の向上を図ります

新たな取り組み

事業経費

1,731万円

◆事業内容

拠点避難所(※)となる全区立小・中学校に、組立式男性用小便器のクワトロトイレを導入します。

※拠点避難所:避難所の中でも、物資の配給や情報収集などの拠点となる場所

◆目的

災害発生時の拠点避難所でのトイレ問題(衛生面・健康面・待ち時間)の解消を図ります。

◆クワトロトイレの仕様

特徴	男性4人が同時に使用可能
重量	本体:約28kg、テント:約10kg
寸法(組立時) ※テントを含む	幅1.8m×奥行1.8m×高さ2.4m



クワトロトイレ(イメージ)

◆特色・効果

- 既存の仮設トイレは個室のため一人一人の排泄までの時間を要していますが、男性の小便器スペースを分離することで、トイレの待ち時間短縮を図ることができます。
- 組立は簡略であり、設置後に横幕をつけることで周囲へのプライバシーの配慮ができます。

◆背景

東日本大震災や熊本地震など過去の災害を見ると、ライフラインが復旧するまでトイレには長蛇の列ができ、水分補給を控えてトイレに行く回数を減らすことで体調不良になる避難者が数多くいるなど、トイレ問題が度々起きています。

◆概要

導入時期	平成29年度
場所	拠点避難所(全区立小・中学校)
購入予定数	73基
他区の状況	台東区・豊島区に次ぎ3番目(江東5区(※)では初)

※江東5区:東京都東部に位置する墨田区・足立区・葛飾区・江戸川区・江東区を指す

長期計画の該当項目: 施策33 地域防災力の強化

担当課: 防災課
 窓口: 防災センター4階1番

電話: 3647-9587
 内線: 6216

誰でも無償でインターネットに接続！
拠点避難所と観光スポットにフリーWi-Fiを整備
 情報収集の利便性を高めます

新たな取り組み

事業経費

1億1,508万円

◆事業内容

区内の拠点避難所と観光スポットに、電話回線が利用できない場合であっても、誰でも無償で無線LAN接続端末を用いてインターネットに接続できるサービス環境を整備します。

◆目的

- 災害時でも効果的に情報を受発信できることによる安全・安心な生活の実現、及び平常時の利便性向上を図ります。
- 訪日外国人観光客も含めた来訪者の、手軽に情報を入手したいという要望に応えます。

◆効果・特色

- 災害時に拠点避難所で避難者自ら情報収集、安否確認を行えるようになります。
- フリーWi-Fiの検索・接続ができる多言語対応アプリケーション(※)と連携することにより、訪日外国人観光客も簡単にインターネットに接続することができるようになります。
- 国等の補助金(整備費の2分の1)を活用して整備します。

※自治体や交通インフラ(空港、鉄道、バス等)、大型商業施設等が提供するフリーWi-Fiを検索し接続することができるアプリケーション「Japan Connected-free Wi-Fi」による利用を可能とし、東京都や他区との連携利用を可能とする仕組みで導入します。

◆背景

地域の安全・安心の確保や外国人受入れ環境の整備を目的とした自治体によるフリーWi-Fi整備が進んでおり、江東区においても東京2020オリンピック・パラリンピックに向け区への来訪者が増加することが見込まれており、Wi-Fi環境の整備が求められています。

◆概要

時期	平成29年9～10月 サービス開始予定
設置場所	全区立小・中学校(68校)・区内の観光拠点
他区の状況	23区中18区で実施



長期計画の該当項目：計画の実現に向けて(2) スリムで区民ニーズに的確に対応した行財政運営

担当課：情報システム課
 窓口：防災センター5階1番

電話：3647-8664
 内線：6116